

## 大沼生産組合 組合長 金安 秀雄(新潟県長岡市)

品種	作付面積	単収	地域の単収との差(地域の平均単収)
新潟次郎	約21.4ha	652kg/10a	151kg/10a(501kg/10a※)

※作柄調整後の地域の平均単収

## 【経営概況】

- 生産組合(構成員20名、オペレーター10名)
- 平成3年に生産組合を設立。
- 経営面積:56.5ha

## 【作付品目】

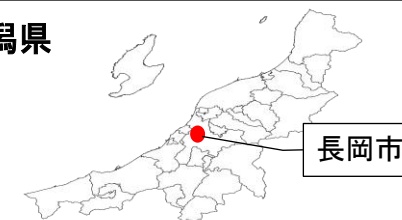
- 主食用米  
コシヒカリ 26ha、みずほの輝き 6.8ha  
新大正糯 1.4ha、こがねもち 0.9ha
- 飼料用米 新潟次郎 21.4ha



## 【取組のきっかけ】

- 当初、大豆栽培の労力過多を背景に、バイオ米の栽培を行ったものの、バイオ米への産地交付金の支援がなくなったため取りやめた。その後、平成27年産から作期分散のため、飼料用米の早生品種「新潟次郎」の栽培を開始した。

新潟県



## 【多収のポイント】

- 代掻き前に、基肥として早生スーパー元肥パワフル30(40kg/10a)をブロードキャスターにより、散布するとともに、田植え時に側条施肥(20kg/10a)を施用し、肥料切れを防止。(土づくりとして、ケイ酸カリを施用。)
- 投げ込み方式の除草剤(アシュラ:ジャンボ剤)を使用することにより、散布の省力化及びコスト低減を図るとともに、雑草による肥料ロスを防止することにより、単収を確保。
- 収穫量計量機能付きのコンバインを導入し、圃場ごとの収穫量を把握し、翌年の施肥設計を行い単収増及びコスト削減。

## 【コスト削減等のポイント】

- 育苗は、厚播き(通常150g/1箱のところ、200g/1箱)を行うとともに、苗の植付密度を50株/1坪(通常60株)の疎植にし、田植え、育苗の省力化、運搬費のコスト低減を図っている。
- コンバインから乾燥施設への運搬を、ホッパーから軽トラのダンプへの積み込み(バラ積み)に変更し、乾燥機の投入口に直接投入することにより、積み下ろしの労力の低減を図るとともに、調製後はフレコン出荷によりコスト削減を実現。
- 機械の整備・点検・修理を、基本的に組合で実施し、コスト低減を実現。